

## ● 産業建設委員会 ●

### 高山市公設地方卸売市場新築工事(建築・電気・機械)請負契約の締結

**問** 契約金額については、さらに資材価格が高騰した時は、ある程度スライドするという柔軟な対応はされるのか。

**答** 工事契約約款で、物価の急激な上昇などについては、受注者と発注者で協議して、必要ならば総額の変更契約をすることとしている。工事の監督員は、受注者側と常に相談しながら進めている。

### 市有財産(旧飛騨舟山スノーリゾートアルコピア屋外ステージほか)の無償譲渡

**問** 市有財産を無償譲渡する根拠は。

**答** 今回無償譲渡する建物、設備は、スキー場の廃止に伴い撤去する予定であったもので、残存価額より撤去費用の方が多額になる。備品は市場価格がなく備品本来の価値がないものと判断している。

**問** 個人への譲渡について、地域との合意もあってということだが、市は事業計画について確認し、精査しているのか。

**答** 旧飛騨舟山アルコピアスキー場の廃止後の地域振興をどうするのかということで、久々野地域の各種団体が検討会として議論を重ねており、船山、あららぎ湖、位山周辺の資源を活用した取組みができないかということもテーマとして挙がっている。そうした中で、譲渡申出者が計画している通年での事業展開というのは、検討会でのテーマとも大きく結びついてくるものである。

#### ◆ 委員間討議

「久々野地域全体の活性化に対する市の関わり方」及び「個人への無償譲渡にあたり、市として公益性を確保し、公平公正を担保する一定のルールづくり」を論点とし委員間討議を行いました。

#### ◆ 委員からの主な発言

- 久々野地域だけではなく高山市全体の中で、支所地域がどういう役割を担っていくのかということを行行政として指導、助言することも必要である。
- 市は公平公正という観点から個人の取組みをサポートできないが、久々野地域の取組みと譲渡申出者の事業がうまくかみ合い一体として活性化に繋がるためのコーディネートは、市がリーダーシップをとっていくべきである。
- 個人へ譲渡する場合は、透明性と公平性、そこを担保したルール作りは、リスクマネジメントの一つとしても求められていくのではないかと。

#### ◆ 現地調査

議案審査を実施するにあたり、9月13日に現地調査を行い、久々野まちづくり協議会長、久々野町連合町内会長及びアルコピアヒュッテ組合長から地域との連携について意見をお伺いするとともに無償譲渡する建物、設備及び備品の状況を確認しました。



旧飛騨舟山スノーリゾートアルコピアの現地調査